

松本山雅FCサポーターミーティング in 山形村

- ・日程：2016年6月11日（土） 10:00～12:00
- ・場所：山形村 ミラ・フード館
- ・サポーター参加人数：約50名

「司会」

皆様たいへんお待たせいたしました。ただいまよりサポーターミーティング in 山形村を開催いたします。本日司会を務めさせていただきます。株式会社松本山雅の小澤修一と申します。なお、本日は施設の都合上予定時刻の12時までとなりますので、あらかじめご了承ください。まずは本日の出席者のご紹介をさせていただきたいと思っております。株式会社松本山雅代表取締役社長 神田文之、取締役副社長兼ゼネラルマネージャー加藤善之、取締役副社長兼事業本部長 上條友也、以上の3名となります。では代表しまして神田文之より挨拶をさせていただきます。

「神田社長」

あらためまして、おはようございます。お集まりいただいた皆様に心より感謝申し上げます。今シーズンはサポーターミーティングという形を、新起動させて、ホームタウンを回ろうという点、それから試合の年間スケジュールの中で、皆さんにお集まりいただきやすい日程をクラブで考えて開催させていただいております。今後継続して、今シーズン中に複数回開催予定となっております。現在トップチームの状況ですが2位ということで、よくなってきたねという声をかけていただいておりますが、昨年2015年にJ1にいた中で色々な反省点がみえて、今年課題としている、もう一度J1に上がった時に戦えるクラブをつくっていくという、非常にスピード感をもって足場を固めていくということが重要かなと思って、動いています。2015年のJリーグの各クラブの決算が5月末にJリーグから発表されました。おかげさまでクラブも21億円を超える売り上げを達成し、過去最高ということですが、ただしJ1の平均は30億円を超えており、優勝した広島さんは36億円という規模で、優勝しているという姿をみると、いろいろ考えさせられることがありました。やはりすべて山雅にかかわっている皆さんの状況を考えると、このクラブの成長と活躍を願っているのかなと思うと、より効率的に経営を行っていくことを考えなくてはいけないかなと思います。アルウィンでサポーターの方をみたり、場面場面で強く感じる次第であります。試合運営、今日の議題に挙がっている部分ですが、どちらかというと経費をかけなければいけない。収入というよりは経費をかける部分の話となっております。そこはお金をつかえば、より良い運営ができるということになるかもしれませんが、かけるところ見直すところを精査していくことで、より効率的な経営に加速していく必要がありますので、今日の

議論の中でも、建設的で、全体の中で見た試合運営ということで皆さんお考えいただければありがたいと思います。本日もよろしく願いいたします。

「司会」

それではこれより本日のミーティングテーマであるホームゲームの試合運営についてうたらせていただきます。今回はアルウィン周辺駐車場について、先行入場抽選会について、座席についてという 3 つの項目を挙げさせていただきました。これは私たちが課題に感じているテーマであり、またクラブへのメールや電話での問い合わせが非常に多い項目となっております。まずは上條より 2016 年シーズンの取り組みを説明させていただき、そのあとクラブが課題に感じている項目を説明させていただき、会場の皆様から各項目ごとにご意見いただく形にしたいと思います。それでは上條副社長お願いいたします。

「上條副社長」

みなさまおはようございます。試合運営を含めた事業部全般を担当しておりますので、本日はわたくしから説明させていただき、皆様と議論していきたいと思っております。今現在クラブが試合運営をどのような考えの下取り組んでいるか、そこから課題や問題点を率直にお話しさせていただいて、皆様から忌憚のないご意見をちょうだいして、できたら皆さんと 1 つの方向に向かって、問題点を共有して解決策を見出していきたいなと思っております。それをまた、新しい運営の改善に結び付けていくところまでヒントが見つけれたらいいなと思っておりますし、一人でも多くのお客様にアルウィンにきていただいて快適な観戦をしていただくことを願っておりますのでよろしくお願い申し上げます。

それでは本題に入る前に、私共が今シーズンどんな考えを持って、運営にあたっているかということをお話しさせていただきたいと思っております。入場者数についておさらいをしますと、ホームゲーム 9 試合が終了して平均入場者数が 12,699 人ということであります。そのうちアウェイの入場者数が大体 600 人です。昨年の数字は J1 になったということで、ナビスコカップを含めると約 15,800 人、うちアウェイのお客様が約 2,000 人という数字です。やはり、若干減ってはおります。明らかにアウェイの数字は下がっておりますし、ホームについても若干下がっているというのが今日現在の状態でございます。ただし、この先の戦局によって、一昨年 of 2014 年の 12,700 人強という数字を超えていきたいなと思っております。それで、まず今シーズンどんな考えで色々取り組んでいるかという点について 2 つお話をさせていただきたいと思っております。ひとつは、新規ファンの獲得ということです。今年 One soul 新・起動ということで新しいことにいろいろチャレンジしていこうという 1 年に位置付けられています。J2 にカテゴリーが落ちた今年だからこそ、新しいことにトライしていきたいということで少しずつチャレンジしていきたいなと思っております。そうした中でクラブとして、取り組んでいる集客の考え方というのが、キテミテアルウィンという考え

方です。これはまさに言葉通り、1回来て、1回観てくださいというスローガンです。これによって、私共が新しいプランをできるだけ多くお届けしたいと考えている次第です。簡単になぜこういう考えに至ったかという、Jリーグで毎年観戦者調査というものを
行っておりまして、いろいろな調査の数値がでてきます。この調査のなかで松本山雅の観戦者の皆様のプロフィールが浮き彫りになっていくわけではありますが、それをご披露しますと、まずは観戦歴です。いつごろから山雅の試合を観戦していますかという項目がありますが、2011年以降の観戦者が60%以上です。JFLの最後の年から観戦を始めた方が6割ということで、ほかのクラブに比べると観戦歴が新しいということです。昨年、新規に、はじめてアルウィンで観戦した方がどれくらいいるかという、実は5%なんです。我々としては、ショッキングな数字なのですが、J1ということで多くの新しいお客様が観戦にいらっしゃるかと思いきや、意外と少なかったという結果です。もうひとつ、年齢を見ますと、観戦者の平均は40歳程度ということで、ほかのほとんどのJクラブと変わらないのですが、しかし内訳をみますと、40代以上が60%、一方、二十歳前後の10代20代前半の方は10%という数字です。こういったことから見ていくと、少くクラブのファンの硬直化ということがあるかなと思います。それと、試合をどういう気持ちで観戦しているかといいますと、これは非常に顕著にあらわれた回答なのですが、レジャーというキーワードが浮かび上がってまいります。全クラブの中で1位の数字です。試合という言葉よりレジャーや趣味や話題性というところが1位になっています。ということはつまり、試合そのものはもちろんですが、それ以上に周囲のことを楽しみにしているのではないかと考えられます。そしてもう一つ、再観戦意向という項目があります。山雅の試合をもう一度見たいですか、という質問ですが、「はい」と答えた方は97%、一回アルウィンに来ていただいた方は、もう一度行こうという方が非常に多いのではないかなという風に考えまして、とにかくキテミテください、キテミテアルウィンということで特に若い方にフォーカスを当てて集客の活動をしております。具体的にはですね、いくつかありますが、ひとつ新しく企画したもので、企画チケットがあります。昨年はクラブとしてほとんどチケットに手をつけませんでした。決めた価格で1年続けました。今年は企画性を持ったチケットをやってみようということで、まずはグループチケット。おかげさまでほぼ毎試合完売しております。やはりグループで観たいというニーズはお客様にはあるのだなと認識しております。それ以外にたとえば、学生さん向けの学生チケットですとか、梅雨に入ってしまったのですが、梅雨時の3試合割引パックですとか、次の試合はガールズデーなのですが、ガールズチケットですとか。雨の日の3試合パックは100枚売れたので、まずまずかなと思っておりますが、うまくいっているものもあれば、いっていないものもあります。こういった形で、今シーズンはこの後もトライして行って、どのようなニーズがあるか探っていきたいなと思います。それから、ホームゲームのイベントを強化しようとして取り組んでいます。今年はファンパークというところ、少しスタジアムから離れたところで、いろいろなイベン

トを仕込んでいこうと実際やっています。たとえば、今年は御柱の年でありましたので、御柱とのタイアップですとか、先日はエプソンのタイアップデーだったのでレーシングカーを走らせてみたりですとか、できるだけ、いろいろな話題になるようなイベントを少しずつやっけていこうと、この先もいろいろと企画しておりますので、近々いろいろ発表させていただきたいと思っておりますので楽しみにしていただけましたらと思います。

こんなことで、一つは新規のお客様を取り込んでいこうというのが大きな柱の一つであります。そして、もう一つは、観戦満足度の向上というところで、これはすなわち、ほぼイコールなのですが、運営課題の改善というところで、本日の議題となるところで、いろいろな運営課題を改善していこうということです。今シーズン運営上のことで、3つのことを変更いたしました。1つが、A席を指定席にしたということです。前々からサポーターの皆さんから要望がありました。それに、先行入場の抽選をする際に、長い待機列になってしまい時間がかかるという問題もありまして、1つ緩和させる目的でA席を指定席化しました。2つめが、付随する部分でもありますが、バックの再入場口をつくりました。これも要望がありました。これによって、コンコースの緩和になります。ある一定の効果が出ているかなと思います。3つめがシャトルバスの運行ですが、復路の部分で昨年まではアイシティと工業団地は別々の路線だったのですが、これについては共同便で回るような運行に変更いたしました。これは限られたバスの台数しか毎試合手配できないものですから、それを効率的に運用するということが1番大きなメリットになるのですが、今のところ、今シーズンに限って言えば昨年よりお客さんが若干減っているということもありまして、我々の考えている計画、抽選待機列の緩和やコンコースの混雑緩和という形で若干効果が出ているのかなと感じておりますが、この後皆様からご意見賜ればいいのかと思っております。

それでは本日のテーマでありますホームゲームの運営について、3つのテーマがありますので、お話をさせていただきたいと思っております。1つ目はアルウィンの周辺駐車場についてです。アルウィンの周辺駐車場につきましては、皆様ご承知おきかもしれませんが、大芝生、有料駐車場、創価学会、陸上競技場、片倉、信州ビバレッジ、開催日によっては使えないところもありますが、こういった駐車場をご用意しています。昨年と駐車場の数は変わりませんが、今シーズン駐車場をもう少し確保したいと、いろいろなところと交渉を重ねたのですが、今日現在できておりませんので、昨年と同様 3,300 台確保をしているのですが、まずはこのような実態であるということをご理解いただければと思います。次にシャトルバスです。シャトルバスのほうは昨年と実際のバスの運行路線は変わっていません。松本駅、大芝生、アイシティ、工業団地。試合によっては塩尻駅からの運行を実施しております。画面のほうに書かれている赤い数字が今シーズンの平均のバスを利用されている方の数になります。アイシティは 400 人、松本工業団地は 600 人、大芝生は 1,200 人、松本駅は 1,000 人、塩尻駅は 480 人ということで、これは大体アルウィンにいらっしゃる方の 25%です。25%のお客様は、シャトルバスをご利用いただきアルウィンにお越しいただいております。

昨年は30%だったんですけれども、これについてはおそらく、駐車場が満杯になると大芝生に誘導させていただきました。大芝生からシャトルで来ていただく形しかないものですから、多くなっています。今年は若干大芝生からの昇降客が減っているという関係で、こういう数字になっているのかなと思います。それからアウェイのお客さまが減っているので松本駅行きのバスが減っているのかなと思います。シャトルバスの無料化につきまして振り返ってみますと、2014年から実施しています。なぜ無料化したかといいますと、当時は山雅渋滞といわれるようなことで観戦者の渋滞が発生していて、さきほどいったような迷惑駐車や違法駐車という駐車場の問題も大きな問題になっていまして、それを緩和させるためにシャトルバスを無料化して、できるだけシャトルに乗ってくださいという呼びかけをすることとなりました。実際、シャトルバスを無料化することはクラブが金額負担をするということで運営費のほうに非常に負荷がかかってくるというものになります。しかし、これについては当時芝生の駐車場を有料化する、チケットの単価を上げさせていただくということで、サポーターの皆様にもご負担いただきますという、合わせ技のような形で、シャトルを無料化に至った。以上が経緯でございます。その運用は変わっておりませんので、今もそういった状況となります。こういった中でですね、課題ということになりますと、今までお話しした通り、アルウィンの公共交通機関に乏しいこと、駐車可能な場所も非常に少ないということ。中でも一番クラブとして課題になっていることとは、迷惑駐車の問題です。主にどういうことかというと、

公道に停めてしまう、農道に停めてしまう、具体的にいうと西南公園と市営駐車場こういったところに停めてしまいクラブのほうに声がかかるというのが実態でございます。2つ目はですね、そうはいっても駐車場に限りがあるなかで非常に難しい問題なのですが、陸上競技場へも誘導しているのですが実際は他の利用者が利用している、あるいは他の駐車場もそうなのですが、お互いの利用者が使いあうというところで、山雅のサポーターが占拠しているという情報も時々入ってくるのですが、ここは公共の駐車場なので、使ってはいけないというルールはないのですが、利用者の方から指摘をもらってしまう場所になっております。それと3番目が、迷惑駐車が頻発するとそこに対する経費、人を張り付けなければいけないので警備費用の増額につながってしまいます。これもクラブの運営費の大きな負担になってしまうという課題を駐車場については抱えている課題でございます。具体的に写真で見ていただくと、実際にこういう形です。これは大芝生のシャトルバス発着所で白線が引いてあるスペース以外にこういった形で縦列駐車をしている。これはバスが入るところなのでバスが入れなくなってしまいます。これは一例なのですが、こういったものが実際の例としてございます。

ということで、こういったことに対して、クラブとしてはこういった対策をとっていくかといいますと、1つは周辺駐車場については各所に交渉しておりまして、新たな駐車場として公開していくということも考えられます。それから迷惑駐車については警備の強化ということでイタチごっこになってしまうのですが、警備を強化していきたいと思っております。そ

れからシャトルについてですが、長い列ができていう点があります。抜本的な解決は難しいのですが、並ぶお客さんのストレス緩和になるような策を模索しているので、決まり次第お知らせさせていただきます。クラブとして取り組もうとしている事項でございます。以上が周辺駐車場とクラブの対応の実態となりますが、皆さんのほうからなにかご意見ご質問を頂戴できればと思います。よろしくお願いいたします。

「司会」

ありがとうございます。それではこの件についてご意見を賜りたいと思います。挙手でお願いいたします。

「質問者 1」

有料駐車場についてですが、400 台でなく、550 ではないかなと思います。400+150、A と B。それで 700 止められるはずなので、長野県と相談して、警備は大変になるかと思いますがそれが 1 つあります。それから 3 年前に北今井の人たちが、雑木林があって、地権者は県にあるということでアルウィンに相談したのですが、何もしてくれないと。北今井の人たちは違法駐車を減らしてほしいので、雑木林を更地にして活用してほしいという話があったのですが立ち消えになっています。もし山雅のほうでできるならば、話をして雑木林を更地にして活用してみてもいいかなと思います。

「上條副社長」

ありがとうございます。北今井の話があったことは承知しておりますので、われわれ側もいろいろ動きたいと思います。有料駐車場の台数については申請上 400 台でだしているものですから。

「司会」

そのほかにもございますでしょうか

「質問者 2」

今、お話しされた中で、自転車で来られた方が抜けているかと思うのですが、具体的にカウントされたりしていますか。車で来られている方が多いという現状を何とかするとなったときに、他の交通手段を考えたときに、自転車と徒歩というのがあると思います。自転車に関しては来ていただく方が多くなれば、車で来る方が少なくなるのかなと思います。たとえば山雅で自転車クラブみたいなものをつくって、試合開始前に空港の 9 キロの道を 1 周するようなイベントをしたりですか、大学の自転車サークルと協力して、月 1 回美鈴湖のほうへ行って、交通ルールの啓蒙をしてもらったり。車ではなくて、自転車でくる楽しさだったり、メリットや付加価値があがればそちらに目を向けてくれるお客様

も増えるのではないかなと思います。あとは、徒歩ですが自宅からというわけではなく、大芝生から行きはシャトルで帰りは徒歩という人間、具体的には僕らなのですが、結構いるんですね。たしかに試合でジャンプしていて疲れたところ帰るのは大変なのですが、歩きながら試合について話をしていると、結構苦も無く大芝生まで歩いて行けるんですね。歩く楽しみというのもみんなにわかってもらえれば、シャトルバスを利用する人も減るのかなと。行政と協力する必要もあるのですが、大芝生からアルウィンに行く道に、選手が植樹や花を植える活動をしてもらって、歩いている方々が眺めながらアルウィンまで来たりですとか、最近では試合が夜なので帰りが真っ暗ですよ。たとえばサイリウムとかをクラブから歩く方に渡していただいて、初めての方も巻いている方についていけば大芝生まで帰れますよといったことをやれば、もしかしたら歩く方も出てくるかなと思います。

「上條副社長」

ありがとうございます。自転車については、ご指摘の通りかなと思っておりまして、数年前に自転車で来ましょうという呼びかけをしたりもしたのですが、このところクラブもそれに対して呼びかけをしていませんでしたので、1ついいご意見いただいたと思ってみます。徒歩についても、実際に大芝生をご利用されている方で歩かれる方がいらっしゃるということは把握しておりまして、夜は非常に暗いという難点があるのは承知していて、そこに対する方策を考えたいなと思っております。

「司会」

その他にございますでしょうか。

「質問者 3」

去年鹿島に行った時なんですけど、東京から行けるシャトルバスが高額ではありますが運行していました。山雅にもそういうものがあればいいかなと思います。それと昔松本駅から 500 円だったのを 500 円で先行とバスに乗れるような仕組みなどはいかがでしょう

「笹川」

事業本部で運営を担当している笹川です。シャトルバスを担当しておりまして、12 号駐車場からシャトルバスが発着しているのですが、かなりバスが埋まってしまっているという状況があるんですね。さらに、待機列も今年アイシティと工業団地を統合したことで、ひとつ列が少なくなって、有料のバスを作るとなるとそういった点も念頭に置かななくてはいいです。もう 1 点ですが、タクシーの利用を考えることもできまして、第 1 ゲート出たところにタクシープールがありまして、そこを利用されるお客様もおります。松本駅だと定額タクシーで片道 3,200 円。4 人で割るとなると 800 円になるのでそういった利用をしていただくとよいのかなと思います。それからバスに関して、有料なのか無料なのかでかか

る費用も違ってきて、お金をお客様から徴収するときはさらに 1 人当たりにかかるような話しなのですが、バスの事業者でお金を徴収することはできないそうです。そうなるとクラブのほうで人を立てて、お釣りを用意するという手間もかかってきて、できないことはないのですが、そういったことも念頭において検討しなくてはいけないと思います。

3 年前からシャトルバス無料化をしている経緯は上條からお話しをさせていただきましたが、しばらくは今のようにやらせていただいて、タクシーの利用ですとかそういったご希望があるときは対応していきたいなと思っております。ありがとうございます。

「質問者 4」

シャトルバスについてなんですけど、札幌戦に工業団地から乗車したんですけどシャトルバス非常にいい観光バスですよ。しっかり定員を数えて座れる人しか乗れないと思うんですけど、昔は乗れるだけ詰めて乗せてたと思うんですけどそれは観光バスになったから定員しか乗れないということなんですか。新工業団地までは 10 分ぐらいだと思うんですけど、もう少し詰めて乗せて回転が早くなれば、待ってるのが長いからシャトルバスを利用しない人がいるのかなと思うんですが。

「笹川」

観光バスに関しては定員が決まっています、立ちで乗せることはできないんですね。松本駅に行くタイプにアルピコバスさんの路線バスタイプがあります。路線バスのタイプであれば立ちで乗せることは可能です。今運行しているバス会社にアルピコバスさんとトラビスバスさんの 2 社がありまして持ってるバスの形状に違いがありまして、工業団地行はトラビスバスさんが全て担当していただいています。全て観光バスになります。アルピコバスさんは松本駅と往路のアイシティ発のバスを担当してもらっていて、松本駅に関しては路線バスが入っている事もあります。駅までは 30 分近くかかりますので、ずっと立っているのは大変なのかなと思います。その辺は難しい所ではあるんですが、バス会社さんとの関係性とかも考慮しなくてはならない部分もありましてアルピコバスさんには松本駅を担当していただいているところが今の現状でございます。ありがとうございます。

「司会」

その他にございますでしょうか？

「質問者 5」

知人からの話しで思いだしたんですが、浅間温泉とか美ヶ原温泉の旅館にシャトルバスや迎えのバスがあるので、特にアウェーの方々には旅館からバスに乗って来てもらって優先的に帰りもそのバスで帰ってもらったらいんじゃないかなと思います。そうすれば浅間温泉や美ヶ原温泉も活性化するしバスの台数も減るんじゃないかということです。

「上條副社長」

ありがとうございます。そのような声はクラブにも入っていきまして、また検討させていただきたいと思います。ありがとうございます。

「司会」

その他ございますでしょうか？

「質問者 6」

車の台数を減らすということで乗合いとかカープールではないですけど、4人乗っていると近くの駐車場に止めれるとか、少しチェックする手間がかかりますけど大人数で来られた方には何か特典があるとかあるといいなと思いました。いかがでしょうか？

「上條副社長」

できるだけ乗合で来て下さいという呼びかけは確かにしておりました。実際にカウントするという事は物理的に難しいのかなと思いますが、貴重な意見をありがとうございます。

「司会」

その他ございますでしょうか？

「笹川」

すみません。先程の補足で有料駐車場 550 台のところ 400 台という話がありましたが、有料として販売しているのが 400 台でありまして、それ以外で皆さんご存知だと思いますが、マレットゴルフの利用者だとか障害者の方とかを優先的にご案内しているというのがありますので有料としては 400 台ということでご案内させていただいています。

「司会」

ありがとうございます。それでは次の議題に進ませていただきます。次は先行入場抽選会の現状と課題についての話しをさせていただきます。

「上條副社長」

先行入場抽選会についてはあります。先行入場の抽選会というのは過去にさかのぼりますと 2013 年に一度テストを実施いたしました。2014 年度から先行入場抽選会というのを実施しております。こうした経緯としましては夏場の熱中症の対策ということと、来場者への公平性。それと一般の公園利用者の方々

への配慮ということを含めてこの先行入場抽選会というものを実施しています。運用そのものは昨年と変わってはいないんですが、先程お話ししましたようにA席を指定席化したことでA席の方は抽選会をする必要がありませんから対象者はB席とホーム自由席のシーズンパスをお持ちの方というように今年はなります。そして抽選をしていただいた後再度待機列に並んでいただいております、基本的な運用状況としては抽選権1枚について4名までが同じ場所に並んでもらい入場していただくという運用にしております。今シーズンは大体ですけど先行入場で入っていただいている数というのが約3000人になります。この先行入場抽選会の課題として2つ上げさせていただきます。1つは何枚も、複数枚の抽選券を1度に引く方ですとか、あるいは1度引いてまた再度並び直す2度引きする方ですとか、1枚で4名までという形にしておりますがそれ以上の人数の方が割り込んで入ってきてしまうとか、言葉で言ってしまうと不正行為ですとかルールを逸脱したことをされる方がいらっしゃるの一番の課題ではあります。もう1つが対外的にはまだアナウンスされていないんですけど、今抽選会している場所それから待機列整理場所になっている所、4ゲートの外側の所に施設の方でトイレを建設する予定になっています。早ければ今月の末から着工する形でトイレ工事自体は半年ぐらいかかることを運営の方から聞いておりますので、そうしますとシーズン中にも関わらずそこにはトイレの建築物である塀ができたりそういう状態になります。そうしますと今4ゲートの方で実施している抽選、あるいは待機列の場所についてこの場所では出来なくなるようになりますので、これについてはクラブの方でどういった変更をしていこうかと検討しております。近々そのような問題もはらんでいくということです。

こういったことに対してクラブの取り組みとしてなんですけども不正行為に対しては例えば4ゲートの方では非常にオープンスペースで列を作っていますのでいろんな人が入ってきてやすい環境になっているもんですから、ローピングで周囲を囲ったりとかそういったことによってそのような報告はあまりなくなっています。それからボランティアのパモスさんですとか警備の担当者のチェックですとか強化すること、これを継続してやっていきたいということです。以上が先行入場抽選についての現状と課題という形になるわけですけどもこれについての皆さんのご意見を賜りたいと思います。

「司会」

それではこの件についてご意見ご質問をお伺い出来ればなと思います。挙手の上お願いします。

「質問者7」

浦和レッズのサポーターの方が言っていたんですけども最近は電子抽選で前日に分かるそうです。全員が電子抽選できるとは限らないんですけどそういったのもありかなと、そうすると混雑回避になるのかなと、少し考えていただければなと思います。

「上條」

ありがとうございます。今ご指摘いただいたことはまさにクラブが検討しておりまして、逆に皆さんに電子抽選についてご意見をいただきたいなと思うんですけど、電子抽選というのはどういうものかという事です、事前にお申し込みをいただくという形になります。例えば3日間前までに次のホームゲームの先行入場に対してのお申し込みをいただく、恐らくパソコンとかメール環境という形になると思います。それを皆さんからいただいたものを抽選をして送り返す、もしくは送り返すということは方法論としてひとつ考えられるのはメールで送り返す形になるんですけども、あなたは6月19日のホームゲームの抽選番号は310番ですと個人に返ってくるということなんです。それを当日きた番号を係員に提示していただいて1番から順番に列形成をしていただくというものが1つ考えられる方法ではあるんですけど。浦和がやっているのはそれをメールでのやり取りではなくて、プリンターで番号を貰う、事前に抽選は同じで、あくまで事前に全て抽選は終わってしまって自分の番号を前日ないしは当日に貰ってその番号で入場する。当日先行抽選の為に早く来る必要がなくなる訳なんですけど、先行入場するための待機列を作る時間に来てもらえばそれで済むわけなんです。1人で何枚引くとか2度引きとかの不正はなくなる。先程の4ゲートの場所もなくなるということも視野に入れて考えると、ゆくゆくはそういったことまで考えていかなくてはいけないのかなとクラブでは考えているんですけども逆に皆さんにこういった方法をとった場合にどうでしょうか、どなたかご意見をいただけたらなと思います。

「質問者8」

今みたいな話だと本人確認の方法と、それから来ない人の分を使ってやるという問題がかならずでてくるかなと思います。それから先程の4ゲートのローピングの話でいうと場所的にどうかと思いますが、先行入場の抽選会の時間までに1回4ゲートの中に人をいれてそこから出ながら抽選させる手はあるかなと思います。店があるのが問題ですが場所がないのであればそのようなやり方はどうでしょうか

「上條副社長」

4ゲートの問題とトイレの問題についてはどこで抽選をしていただいて並んでいただくかは今考えているところでどういう方法がいいのか参考にさせていただきます。

電子抽選については確かに色々な問題があるのは承知しています。本人確認では番号をメールで転送すれば他の人がその番号で入れることも恐らくできるだろうと思いますが、番号は1個しかないんでAさんに送られてきた番号がBさんに渡ってもBさんはその番号で入れてもAさんは入れないんで、という意味では一対一の番号が振り分けられるのでその問題は問題ないのかなと、ただ例えばメールでやる場合にメール環境の無い方とかそういった問題は今悩んでいる所ではあるんですけども、ありがとうございます。

「質問者 9」

待機列についてなんですが、先日の札幌戦も北九州戦もそうなんですけども、抽選終わって待機列を作った後に抽選に間に合わなかった人達が仲間のところに入ってくるんです。今の待機列の作り方をみますと非常にいい加減なんです。一回しか番号を言わないんですよみんな。そこで3人から4人あるいわ1人から2人いますけどそのところに後から入って来ちゃうんです。4人のところに8人も入ってるところもあるんです。だからもう1回列整理した後に入場する時に最大4人までもう1度チェックする必要があると思います。それと入場する時にせっかく4人で並んでも実際に入場する時はバラバラなんです。チェックする人がいないんです。最終的に荷物検査する時にはいるんですけど、4人なら4人それであそこに並ぶということは抽選権を持ってなくてはいけませんよ。例えば1番の抽選券の人のところに100番とか200番の人が入っているのはいいんですけど、券を持っていない人が入って並んでいる人がいるんです。それをチェックできないんですよ。そういうところを皆さんは理解していないと思うんです皆さんは。もう少しその辺の現状をよく見ていただきたい。その様な事がいっぱいあるんです。ロープをしっかりとるなり警備員がしっかりとチェックするなり、4人なら4人しっかりと入れるような体制をとってもらいたいです。

「上條」

ありがとうございます。十分に検討したいと思います。

「笹川」

すみません、今の質問について補足なんです。先行入場抽選会のルールのところ、1名の方が抽選の券を引いて、最大4名様まで一緒に並ぶというところで、一緒に並ぶ3名の方は必ずしも抽選会に参加している必要は無いです。シーズンパスを持っていれば、抽選をされた方と一緒に入場ができるということも補足として付け加えさせていただきます。

「質問者 10」

この抽選会の問題はその後お話しされる場所取りの問題とセットで話をしないと解決しないんじゃないかなと思っていて、なぜみんなが不正をしてまで2回引いたりするのかというと、誰よりも早く来て誰よりも早くいい席を取る目的のためにやっているのだから抽選会だけを解決すればいいかといえばそうではなくて、例えばその後お話しがあるのでゴール裏を完全な指定席にしまえば場所取り問題や抽選会の問題もいっきにクリアすることができると思うんですけど。この後の話しを聞いてから意見を出し合った方がいいのかなと思います。

「上條副社長」

まったくおっしゃる通りで抽選会と席取りの話はまったくセットの話だと思っています。それでももしよろしければそのようにしたいと思いますが、よろしいでしょうか？

「上條副社長」

それでは座席についてのお話しなんですけども、実はこれが一番悩ましいお話しになっています。まず座席についてざっと現状だけご理解いただければと思うんですけど。今私どもの席割が示されておりますけども、SS席が500人、S席が1560人、A席が2000人、B席が1800人、ホーム自由席が11000人、これに仮にアウェーが1500人とされているんですけども足し合わせると18600人ですね。緩衝帯などを除くと大体アルウィンのキャパが18600ぐらいです。ホーム自由が大体11000というように覚えていただければと思うんですけどもこれが実際のアルウィンの山雅の試合の内訳になります。

座席に関する課題なんですけども、これにつきましてはほとんどの方がルールを守っていただいていると認識しているんですけども一部の方が若干行き過ぎた席取り行為をされるということに対してはどうしてもクラブとしても警鐘を鳴らさざるおえないというように思っております。座席に関しては3つの事が課題であろうと思っております、1つは開場した後のダッシュですね。席に向かって走る。これは本当に危険なのでこれについてはスタッフが誘導したりとかですねできるだけ走らないようにしていますけれども、どうしても走る方が多くて危険な状態があります。

2つ目が先程から話しが出ています席取りの話になります。一人で複数の座席を確保している方が多いという話しになります。3つ目は来場者の席がない場合の人が出てきてしまうということが昨年は多々ありましたけどそういう点で言うと席づめのご協力をお願いしたいというクラブとして思っているのはこの3つの課題になります。

席取りにつきましては実際スタッフや警備が目配せしてタオマフを並べて取るのはやめて下さいとか養生テープを貼るのはやめてくださいとか皆さんに呼びかけをして、それ以降は警備員ですとか社員ですとかスタッフなどが主にゴール裏に立って呼びかけたりしています。ただそれだけでは全てをチェックしきれない部分も実状なので問題として課題として残っています。継続的にこれについては皆さんにはご協力をお願いしていくということクラブとしては発信していかななくてはいけないなと思います。座席に関しての現状の課題なんですけども、これについてもいろいろなご意見を賜りたいと思います。

「質問者 11」

2年前の会でも提案させてもらったんですけど、ゴール裏半分ぐらいを指定席にするのはどうかという案なんですけど。ゴール裏の真ん中からどっちかよりに2000席分ぐらいを来年から指定席にして人気があるからその分少し高めにしてもいいんですけど、ハーフパスにし

て半年で入れ替えて多くの方がその席を体験させてやるのが 1 つの方法かなと思っています。

「上條」

ありがとうございます。ゴール裏の指定席については考えられる方策だと思いますが、皆さんはこれについてどう思いますか？

「質問者 12」

指定席についてはこの問題を全てクリアする解決方法の 1 つだと思いますが、山雅の応援スタイルなんですけどやはりまったく見ず知らずの人達と喜んだり悲しんだり抱き合ったり手をたたき合ったりというのが応援の醍醐味の大きな一つだと思うんで完璧に指定席にしてしまうとそれがなくなってしまうんじゃないかなと危惧しています。

妥協案なんですけど先程電子抽選のお話が出たんですけども座席を電子抽選にできないかなというのがアイデアなんです、ゴール裏のベンチシートなんですけど番号がふられてますよね。あれを抽選に持って来れないかなというのがアイデアなんです。完全に指定席は頭では素晴らしい考えなんですけど心ではうまくないかなと思います。

「司会」

ありがとうございます。他にご意見ありますか？

「質問者 13」

今のゴール裏の指定席に関して完全指定じゃなくてゾーン指定のような形にしてもらうのはいかがでしょうか。ゴール裏の真ん中の方は爆心地と言われる熱狂的なサポーターが集まるところ。そこから徐々に外に広がるにつれて温度差が広がってきている。それが完全指定になると混ざってしまうことです。回りが飛び跳ねているのに自分だけ座っているサポーターさんの形も出てきてしまうのかなと。1つはゾーン指定の考え方が1つあと指定席に関して北ゴール裏に関してはベンチシートだけを指定席にして立見席は完全に自由そんな形もあるのかなと思います。

「質問者 14」

先程の方の補足なんですけどガンズ会員のグリーンとプラチナがありますがその間をとってゴールドを作って売りだしてその人を対象に電子抽選のテストをやってみたらいかがでしょうか

「神田」

すみません。少し私の方から。

まずはクラブとしてゴール裏にこんなにも価値を生み出してくれた皆さんに感謝というか私はサッカーを観たいなと思うと結構真ん中のSS席とかで観た方がサッカー観るには観やすいと一般的には言われるところなんですけどもゴール裏の価値を上げていただいているのはサポーターの皆さんだというのが1つなんです。もう1つはクラブの試合運営を支えていただいているチームバモスの皆さんがある意味クラブスタッフ以上に自分達で配置も含めてリスクや起こることを想定して主体的に動いていただいている今のアルウィンの運営体制というのはなかなか他から真似できないと言われていた状況が1つこのクラブには存在しています。

もう1つドイツに私たちが研修に行かせていただいた時に、たまたまドイツに知人がいて山雅のサポーターって今こんな状況なんだと話して、ゴール裏の話もその時でした。その時にドイツの友人からアドバイスされたのが、ゴール裏だけサポーターに席割の方法を任せるクラブがあると、サポーターの何名でもいいんですが登録団体として色んな方にクラブにサポーター登録をしてもらってサポーター登録団体の中で年間通じてホームゲームをどういう形で席割をするのかとか、ゴール裏だけはサポーターに任せているんだということが成り立つクラブがあるんだということを聞いた時に何かこのクラブで実現できるようなものがあるんじゃないかと思って私はイメージしているんですけどあまりクラブの中でも賛同してもらえないので今言わせてもらったんですけどそんな発想もあるということをおっしゃって下さい。

「質問者 13」

さっき分かりにくいようだったので、補足させていただきます。ゴール裏全部という事ではなくて、ゴール裏の半分ぐらい、また年間ではなくてハーフシーズンぐらいで入れ替えてもらうのが良いかと思えます。ライト層や初めて来た方がまた来たいと思った時に、年間を通しての指定席ではなくて、シーズンの途中でそういったタイミングを作るのが良いのではないかと。もうひとつ、ウルTRAS松本の応援も雰囲気を作る上で重要なので、その前提で話しをしています。

「司会」

他にご質問はありますか？

「質問者 15」

ダッシュの事なんですけど、どこだったか覚えてないんですけど、アウェイに行った時に50人ぐらいずつ入場を制限して、警備員が立って誘導しているところがありました。そうしてもらえば走る危険性は少なくなると思います。それから抽選で、熱中症にかかる人が多く、

それに対応したいというお話しでしたが、先行入場の抽選をする時までに並び、その後列整理をしてからはトイレにもいけない、離れちゃいけないという事で、炎天下の場合にはそれだけでも体調が厳しい状態になります。私なんかは年も取っているのに、そういう状況で入場し、西日が強いバックスタンドで観戦しています。去年、通路の影になっているところで、邪魔にならないところで腰を下ろさせて頂いたんですが、会社の方に「ここはダメだ」と言われて、じゃあ私達はどこにいればいいんですか？と聞いたところ「座席に座ってろ」と言われたんです。よその子ども達もそのあたりで涼を取っていたんですが、熱中症うんぬんについては先行入場抽選会の前後も含めて検討してもらった方が良いかと思います。抽選会は4ゲートの方にはいるんですが、たしかに炎天下の下です。アウェイに行った時もそういった待機列があるんですが、木がいっぱいあって涼をとる事もできますが、アルウィンでは木もありません。じゃあどこで休むんだと言われたら、少しでも工夫をしてやっているんですけども、70歳になった私にとっては厳しい事です。もうひとつ、先ほど電子抽選という事をおっしゃられて、スマホをもっていない方、私みたいにパソコンが出来ない人はどうなるんでしょうか、山雅では年配の方も非常に多いと思います。果たして全員の方がそういった事に参加できるのか、そういった面も検討して頂ければと思います。以上です。

「上條副社長」

ありがとうございます。電子抽選については、ご指摘頂いた通りだと思っていて、まだ、やる、やらないを決めているわけでは無くて、皆さんのご意見を色々聞いていくなかで良い方法を見つけていきたいと思っています。熱中症に対する問題については、先行入場抽選会を始める以前には、ひたすら何時間も並んでいるような状況だったんですね。それが、先行入場の時間までに集まってもらって、一回解散して、また集まるようにして、滞留時間を短縮出来た事で、熱中症の方が以前と比べて少なくなったと説明したつもりでした。現在、私は熱中症のお客さんがやってくる医務室を担当しているんですが、最近は毎試合患者さんがやってきます。必ずしも熱中症対策が完璧だと思っておりはおりませんし、今頂いた意見も参考にさせて頂きたいと思っています。ありがとうございます。

「司会」

その他にございますでしょうか。

「質問者 16」

今まで、指定席とかやるとなるとスケールの大きい話が多かったんですけども、すぐにでも出来そうな簡単な話です。席つめに関して、私は実際に南側のゴール裏で見えて、去年のエスパルス戦と、今年の群馬戦でおんべを席に置いた時に、あの時にはすごく席がつ

まりました。あれがあると、13人のところに13人座るんです。あれが徹底されるだけで、2割ぐらい座れるんです。こういっちゃなんですが、あまり大きな手間をかけずに解決出来る事かと思います。あと、よく列整理の時間ってありますが、席整理の時間を設けて、荷物だけ置いてどこかに行ってしまう人の荷物を、人の荷物は動かしづらいですがベンチシートの定員の人数までは席を詰めさせてもらいますよと予め告知して、席にいても荷物はずらしませと告知していけば、抜本的な解決にはなりません、すぐに出る事かと思ひ、お話しさせて頂きました。

「上條副社長」

ありがとうございます。席つめについては、今は呼びかけという形でやっているんですが、昨年のように1万7000、8000人の来場者がある時には、もっときちっとやっていかないと席が埋まっていかないとしますし、それは改めて考えていきたいと思ひます。おんべがあれば席が埋まるというのは、たしかにその通りだったと思ひますし、色々と参考にさせて頂きたいと思ひます。ありがとうございます。

「司会」

その他にありますでしょうか。

「質問者 17」

電子抽選ですが、例えば当日シーズンパスを持ってきて、クラブにプリンターを用意してもらって、そこで名前も入れてもらってプリントアウトして、それで並ぶ時には面倒かもしれませんが、名前とプリントアウトしたものをつき合わせてみると良いのではと、今話しを聞いて思ひました。

「司会」

その他にございますでしょうか。

「質問者 18」

席取りをする方というのは、おそらくゴール裏の中心に密度が多くて、端に行くに従って少なくなると思ひますよね。例えばゴール裏は、端の方から席に座っていくというような事は難しいでしょうか。端の方から席に座ってもらって、後で中心が埋まっていくと。何がメリットがあるかという、早く来て端に座っている人は、そのあとの時間で食事が買いにいけたりできます。当然中心の人は待たされますが、中心に行く人は熱い人なので待ってもらえるだろうと。当然キャパシティの問題があるので、中心は抽選会等を行って、ブロック毎に入場してもらったりするのが良いのではと思ひます。

「上條副社長」

ブロック毎に入場してもらうということですね。ご意見、ありがとうございます。

「質問者 19」

席取りについてですが、今私が山雅を楽しみにしているのは、ウルTRAS松本の方達の応援で、みんなが一緒に盛り上がってけると。こういう雰囲気がよそのチームではあんまり無いと。だから、選手も監督もサポーターのおかげですという言葉が出てくるんだと思います。それとスカパーの番組を見ていると、他のクラブの方からも山雅の素晴らしい応援という事がよく出てきます。私は今の雰囲気を壊さないで、新しく来るお客さんにも山雅の応援は素晴らしいと思えるような状況を作って頂けたらと思います。先ほどの件で、先行入場抽選会は4名ずつ入るということで、手荷物検査をして入場する直前に警備員の方が4名かどうかを必ず確認して頂くと、割り込みも少なくなっって嬉しいと思います。

「上條副社長」

ありがとうございます。ゴール裏の雰囲気については、まったくおっしゃる通りで松本山雅が一番素晴らしいところだと思いますので、それを壊さないようにというのはおっしゃるとおりだと思います。指定席やゾーン指定なようなこともそれを阻害しないような形にしたいと思いますし、皆様のご意見を聞きながら進めていければと思います。

「司会」

その他、ご意見いかがでしょうか。

「質問者 20」

自分は仲間が10人ぐらいでゴール裏で見させて頂いており、仲間の中で良い番号をひいた者のところに4人が並び、いけないことだとは思いますがあとに来る仲間の席を確保して観戦しています。良い番号の時は中央で、悪い番号の時は上の方で応援しようと思っています。基本的にはゴール裏の雰囲気が非常に良いと思うんですね。ただ、同じゾーンに同じ顔ぶれが指定席のようにいると思いますが、会社としてある程度は把握しているのでしょうか

「上條副社長」

ある程度は把握しています。

「質問者 20」

それは黙認という事でしょうか。

「上條副社長」

結局、過度な席取りはおやめくださいというアナウンスをしているので、どこまでが過度でどこからが過度じゃないのかという事が曖昧なのは事実です。仮に1人4席まで良いですよと決めた時に、4席まで取れる権利を与える事になり、3000人が先行入場で入場した場合に、3000人が4席ずつ席を取った時に、それだけで12000席が埋まってしまうということになるんですね。現状、そのあたりを敢えて明確にしないのはそういったこともあります。あとは皆さんの良心というかモラルに任せているのが現状で、当然友人があとから来るとか、四大家族で見たいと思う事は当然だと思いますので、ある程度そこを緩やかにしているのはそういったことが念頭にあります。ご理解頂けると有り難いです。

「司会」

その他にありますでしょうか。

「質問者 21」

すみません、要望でも良いでしょうか。先行入場の待機列の整理をしてから、結構な時間がありますけども、もうちょっと早く入場させてもらうことは出来ないでしょうか。待っている時間が結構長くて、これから夏になると待つ時間が長く感じるので、友達とそういう話をしていたんですが、ちょっと考えてもらえないでしょうか。

「笹川」

少し補足させていただきます。抽選番号1番の方から入場の30分前から確認をしておりますが、やはり最後の方まで確認していくのには10分とか15分とかの時間はかかってしまうんですね。早い番号をひいた人ほどお待ちになってしまうという現状があるのと、こちらの費用の問題なんですが、警備員の配置について、場外待機列でのチェック等をしたあとに場内の別の配置についています。先ほどの警備員のチェックが少ないという問題にも繋がってくるんですが、待機列のチェックのあとに場内の別の配置につく警備員がいるので、そこでタイムラグを頂いているという状況でもあります。おっしゃる事ももっともだと思いますので、スタッフの配置や警備員の配置については検討して、改善できる部分は改善したいと思います。

「司会」

その他にいかがでしょうか。

「質問者 22」

電子抽選についてですが、小さい子が一緒にいると待つのが結構大変なんですよ。何時間も前に来て、抽選が始まるのを待ち、抽選が終わったら入場するのを待つというのは子

どもがいると、とっても大変なので、電子抽選は出来たらすごく良いなあと思います。4人以上が一緒に並んでしまうという問題があるのであれば、電子抽選でプリントアウトしてきて、それが4枚の券になって、それを入り口のボックスに入れていくというようなことにすればあまり人を配置しなくてもできるのかなと思います。そのようにした時の問題点は、家にプリンターを持っていない人だと思うんですけども、家にプリンターがある人は家でプリントアウトしてもらって、プリンターを家に持っていない人は、会場でシーズンパスと連動した仕組みのものでプリントアウトするようにすれば、そんなに人数はいないかなと。全員がそこでプリントアウトすると、またそこで並ぶようなことになると思うので、家でできる人はやってきてもらって、プリンターが無い人は会場でやってもらうとうまい解決になるのかなと思います。更に、ゾーン別で入るということは、良いと思います。例えば電子抽選の場合は、電子抽選でゾーンの指定を抽選にすることも可能だと思いますので、少しは解決に向くのかなと思いました。

「上條副社長」

ありがとうございました。電子抽選について、シーズンパスを持ってきて会場で紙を出力するようになれば、そこで必ず列ができると思っています。その場合には、今のワンタッチパスと同じ機械が必要なんですね。それとプリンターが必要という事で、そこに設備投資というお金が必要ということが分かっています。敢えてメールでと申しあげたのは、運営費用が削減できるので、どうでしょうかという投げかけでした。紙であった方が視覚的にも良いと思うので、ご意見を参考に検討していきたいと思います。ありがとうございました。

「司会」

その他にございますでしょうか。

「質問者 23」

今の電子抽選の話でひとつ思いついたんですが、スポンサーのセブンイレブンのマルチコピー機を使って、クラブからメールが送られてきて、シーズンパスのIDと付け合せてプリントアウトできるのかなと。セブンイレブンさんにもシステム開発のご協力を頂かないといけないかもしれませんが、不正防止にもつながるかなと。いかがでしょうか。

「上條副社長」

ありがとうございました。思いもつかなかったことなので、少し検討したいと思います。

「司会」

その他にいかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、この議題はここで終わりに

したいと思います。最後に、その他、ホームゲーム運営について今までの議題以外のことも構いませんので、ご意見のある方にお伺いできればと思います。いかがでしょうか。

「神田社長」

すみません、少しだけ。クラブからのリリースを見て来て頂いて、建設的なご意見を多数頂き、有り難いと思っています。冒頭お話しした通り、限られた資金の中で効率的な運営をしたいという中で皆さんの意見を聞きたいというところは本音でもあります。当然私達はこれを仕事にしているので、皆さんには見えていない面を知っていると思いますし、逆に皆さんしか見えていない面があってこういう会を開いています。先ほどおんべの話が出ましたが、あれはサポーターの皆さんの力を借りてやっていることなので、実際は労力がかからないというわけではないですし、警備に関しては、警備員を増やせばルールは守られるかもしれませんが、当然費用はかかります。ある人に言わせれば、もっと警備減らしても良い安全なスタジアムなんじゃないかとも言われます。本当に理想を言えば、警備員もなくスムーズに入場することかと思いますが、現実には皆さんと一緒にルールを作っていく場かと思っています。私達もクラブが考えている内情を皆さんにお伝えしていく必要があると思いますし、皆さんの発想、アイデアを頂く貴重な場だと思っています。また、そういったコミュニケーションを取れるクラブにしたいと思っています。管理する側、管理される側といった関係ではない形が、山雅のあるべき姿だと思っておりますので、引き続き是非よろしくお願ひします。

「司会」

その他、ご質問ご意見は宜しいでしょうか。それでは、加藤副社長の方から最後にご挨拶をさせていただきます。

「加藤副社長」

せっかくなので、アルウインの機能向上について感じられることがあればご意見頂いて、今までもドリームプロジェクト・サミットでアルウインの現状と課題について色々ご説明させて頂いているんですが、なかなか皆様にご説明させて頂く機会も無いですし、クラブへの問い合わせメールには今回議題にあがっているようなメールが来ているんですけども、今までの話を聞いているとどちらかというモラルに関する問題をどう解決していくのかをクラブも検討をしているんですが、客観的な思いとしては、ルールを守らせるために一定の規律を持たせるためには、何かしらの飴とムチが必要で、選手に対するチーム作りとも同じなんですけど、やっぱり何らかのインセンティブまたは罰則が必要で、そういったことをベースにしないと、おそらくまた同じ問題が繰り返し起きてしまうと思っています。スタジアム運営については、昨年J1に昇格して様々な問題点を我々も見ることが出来たんですけども、常に最適な状態にしておくことは難しいというか、僕は最適な状態とい

うのは無いと思っているので、どうやったらその時々スタジアム運営をベストな状態にもっていけるのかというと、おそらく今年と来年では変わってくると思いますが、その時々に対応出来るように、経験やノウハウを活かして、皆様の声を聞いて、運営の方をしっかりとやっていきたと思っています。HPから問い合わせメールを頂ければ、拝見しておりますので、是非ご意見を頂ければと思います。チームの方は、京都戦とか明日の岡山戦とか大一番が残ってますし、当然、山形、水戸には負けられないということで、残り4試合をしっかり戦って、独走態勢になれるような位置にいきたいと思っています。皆様は補強の情報を興味深く思っていると思いますが、しっかり補強もする準備もしていますので、引き続き快適なスタジアムで良い試合を見て頂いて、たくさんのサポーター、ファンを増やしつつ、最終的な目標は地域が山雅を通してどう盛り上がっていくかということだと思いますので、是非そういう観点で応援をして頂きたいと思っています。また、ホームタウンを巡回するサポーターミーティングは、継続してやっていきたいと思っていますので、今回少しご案内が遅れたということで、もしかしたら集まりが悪かったかもしれませんが、サポミではこういったテーマで話して欲しいということがあれば、要望を受けたいと思っています。今日はお忙しい中、ありがとうございました。引き続きよろしくお願いします。

「司会」

以上を持ちまして、松本山雅サポーターミーティング in 山形村を終了させていただきます。明日はアウェイ岡山戦があります。19日にはホームで山形戦があります。今後とも松本山雅FCに熱いご声援をよろしくお願いします。本日はありがとうございます。